

第18回日本認知症ケア学会大会 発表

題名；中鎖脂肪酸油摂取による「自分らしい」食行動

氏名；平田 祐子¹⁾、渡邊慎二²⁾

所属；¹⁾医療法人活人会介護老人保健施設都筑ハートフルステーション、
²⁾日清オイリオグループ株式会社

【目的】

多くの研究は「アルツハイマー型認知症患者の脳の神経細胞は死んでいる」という前提であることに對し、近年ではエネルギー不足により機能不全による休眠状態であり、中鎖脂肪酸油（MCT）が脳の細胞を目覚めさせるという報告がなされた。認知症治療薬を中止した A 氏（91歳）が、一月足らずで著しい食行動の低下をきたしたため、脳への栄養補給として MCT の摂取を試みたところ、再度自分らしい食行動が回復できたため、これを報告する。

【方法】

A 氏に一日 12 g の MCT を 3 か月摂取。失われた食行動の自立が再獲得できるかどうか観察。

【倫理的配慮】

A 氏とその家族及び施設長の承諾を得た。また個人情報に関する配慮を行い、家族の意向をその都度確認した。

【結果】

手掴みで食事を床に放り投げることや、テーブルの上でごちゃ混ぜにし、口に運ぼうとしなかった A 氏が、箸・スプーンを使用して、自ら食事する動作が回復した。また、視線がぼんやりし表情の乏しさが著名であったが、笑顔が出るようになり、他の利用者と同じテーブルで食事ができるようになった。食形態が全粥から常食へ上がり、意味不明独語が減少した。

【考察】

MCT 導入以前から食事全介助であったため、栄養状態に変化はみられなかったが、右手に箸やスプーンを持つことや、左手で食器を持つなどの本来獲得した機能がいったん失われたものの、再度獲得できたものと評価する。適切な道具を活用し、食事をするという目的の達成と、無表情から笑顔の表出へ変化したことは、家族の大きな喜びともなった。

【おわりに】

摂取継続して間もなく一年、A 氏の食行動は維持できている。他、現在、意識レベル 100 で片麻痺、経口不可の脳梗塞後に入所された B 氏に対し、PEG 経由で MCT を使用。発語、自筆、経口水分可能と変化した事例を検証中である。